

集約率が上がり続けるサーバー仮想化環境を

パフォーマンス & 容量 & コスト の最適化で実現する Pure Storage のフラッシュストレージ

社会的な背景

拡大するサーバー仮想化市場規模

ハードウェアの
リソース効率化

エネルギー問題
への対応

人為的または
自然災害対策

年平均
+6.22%
成長と予測

9,907.87 百万ドルに
達すると予想

2020年

2026年

サーバー仮想化の市場規模が年々拡大

出典：マーケットリサーチフューチャー「サーバー仮想化の世界市場予測（～2026）」
<https://www.marketreport.jp/global-server-virtualization-market-research-mrf22fb120>

サーバー仮想化の課題

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1 性能の劣化防止 | 2 容量・コストの最適化 |
| 3 仮想マシンの集約密度 | 4 業務継続性 |
| 5 パフォーマンスボトルネックの究明 | 6 セキュリティ |

Pure Storage のオールフラッシュソリューションが解決

1 性能劣化防止

従来型フラッシュストレージの課題

- 書き込み速度が遅い
- 大きなブロックサイズは苦手



Pure Storageならば

ワークロードを選ばないアーキテクチャ

- ▶ フラッシュが弱い書き込みや大きなサイズのIOも独自の重複排除や可変長IOのテクノロジーで高い性能を実現

低レイテンシ

- ▶ サービスレベルに影響するアプリケーションへの応答速度を細かくコントロールすることで1msec以下を実現

2 コスト・容量の最適化

従来型フラッシュストレージの課題

- 高額
- データ削減効果が薄い



Pure Storageならば

HDD並みの容量単価

- ▶ オールフラッシュなのにHDD並みの容量単価を実現

高いデータ削減率

- ▶ 同じプラットフォームが利用されるサーバー仮想化での効果は特に高く、削減率は5倍程度
- ▶ 実効容量を保証する容量保証プログラムも提供

3 仮想マシンの集約密度

従来型フラッシュストレージの課題



- 仮想マシンからのアクセスが不規則で集約密度が下がる

Pure Storageならば

自社開発の高密度なメディア (Direct Flash Module)

- ▶ DFM一枚あたりの容量が18.2TBから48.2TBと他社と比較し、2倍以上高密度

コンパクトで省電力

- ▶ 高集積によりラックスペース・消費電力を削減しESGへ貢献

4 業務継続性

従来型フラッシュストレージの課題



- 経年によるパフォーマンス劣化や不慮のダウンが発生

Pure Storageならば

可用性 99.9999%

- ▶ 冗長化されたモジュール型のアーキテクチャにより、メンテナンスや障害発生時でもサービス影響なし

Active Cluster

- ▶ 追加ライセンス不要のゼロダウンタイムソリューション

性能劣化防止機能

- ▶ ワークロードを選ばない低レイテンシ・アーキテクチャ

5 パフォーマンスのボトルネックの究明

従来型フラッシュストレージの課題

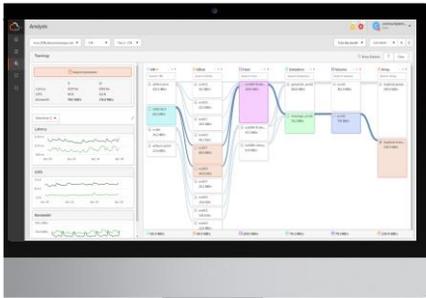


- サーバー・ストレージ間の問題の切り分けに時間がかかる

Pure Storageならば

VMAnalytics

- ▶ VM、ESXi ホスト、データストア、ボリューム、アレイまで、各レイヤーの性能情報をフルスタックで表示可能



6 セキュリティ

従来型フラッシュストレージの課題



- サイバー攻撃後の復旧手段が無い

Pure Storageならば

SafeMode

- ▶ 重要なデータを保護し、攻撃から迅速に回復できるようにすることで、ランサムウェア攻撃による影響を軽減

